

## 肺がん検診を受けるには…

会社員や公務員の方など

(職場でがん検診や  
人間ドックがある方)

職場のがん検診や  
人間ドックを受けましょう

左記以外の方

市町が実施する  
がん検診を受けましょう

## 肺がん検診に関するお問い合わせ一覧

肺がん検診について詳しくお知りになりたい場合は、  
お住まいの市町へお問い合わせください。

市町名	担当課名	電話番号
金 沢 市	健康政策課	076-220-2730
七 尾 市	健康推進課	0767-53-3623
小 松 市	いきいき健康課	0761-24-8056
輪 島 市	子育て健康課	0768-23-1136
珠 洲 市	健康増進センター	0768-82-7742
加 賀 市	健康課	0761-72-7865
羽 咋 市	健康福祉課	0767-22-1115
か ほ く 市	健康福祉課	076-283-1117
白 山 市	いきいき健康課	076-274-2155
能 美 市	健康推進課	0761-58-2235
野 々 市 市	健康推進課	076-248-3511
川 北 町	福祉課	076-277-8388
津 幡 町	健康推進課	076-288-7926
内 灘 町	保険年金課	076-286-6101
志 賀 町	保健福祉センター	0767-32-0339
宝 達 志 水 町	健康づくり推進室	0767-23-4545
中 能 登 町	健康保険課	0767-72-3140
穴 水 町	子育て健康課	0768-52-3589
能 登 町	健康福祉課	0768-62-8514

県健康推進課のホームページでも、各市町が実施しているがん検診の  
内容を確認することができます。

「石川県 がん検診」で検索！

石川県 がん検診



40歳以上のみなさん！

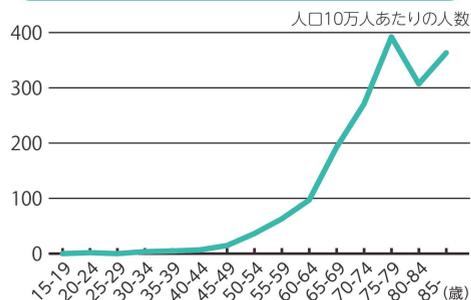
受けていますか？  
**肺がん検診**



石川県

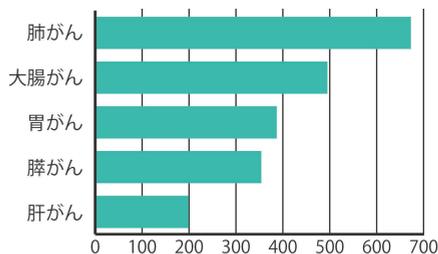
# 肺がんは死亡数が一番多いがんです。

年代別肺がん罹患率※1



※1 石川県におけるがん登録 (2020年) (上皮内がんを除く数)  
 ※2 人口動態統計 (2023年)

40歳以上の部位別がん死亡数※2



- 石川県では年間約1,200人が肺がんになっており、がんの中で、胃がん、大腸がんに次いで多いがんになります。また、肺がんは、**40歳代から増え、年齢とともに増加**します。
- 肺がんは、**がんによる死亡原因の第1位**です。

## 喫煙と肺

たばこを吸わない人に比べて、たばこを吸う人は日本人男性では約5倍、女性では約4倍肺がんで亡くなるリスクが高くなり、たばこを吸う年数、本数が多いほど肺がんになりやすいという研究結果が出ています。たばこは喫煙者本人のみならず、周りの人 (受動喫煙者) の肺がんリスクもあげてしまいます。禁煙によって自分と周囲の人の健康な肺を守りましょう。

ほとんどの初期の肺がんは、自覚症状がないので検診でなければ見つかりません。

**早期に発見**し、適切な治療を受ければ、**85%以上治ります**。

定期的ながん検診を受診することが重要です。

## 5年相対生存率※3

早期で見つけるのと見つけないのとこんなに違います!

早期発見した場合  
(I期の早期のがん)

**85.6%**

早期発見できなかった場合  
(IV期の進行したがん)

**7.3%**

※3 ここでいう「治る」とは、診断時からの5年相対生存率です。相対生存率とは、治療でどのくらい生命を救えるかを示す指標です。出典:全がん協加盟施設の生存率共同調査 (2011-2013年診断症例)

肺がんを早期に発見するために、**40歳**を過ぎたら**年に1度、検診**を受けましょう。

●肺がん検診は、問診の後、胸部レントゲン検査、喀痰検査を行います。  
 (これらの検査は、死亡率を減少させることが科学的に証明された有効な検診方法です。)

## 胸部レントゲン線検査

胸部レントゲン検査では、大きく息を吸い込んでしばらく止めた状態で撮影を行います。



## 喀痰検査

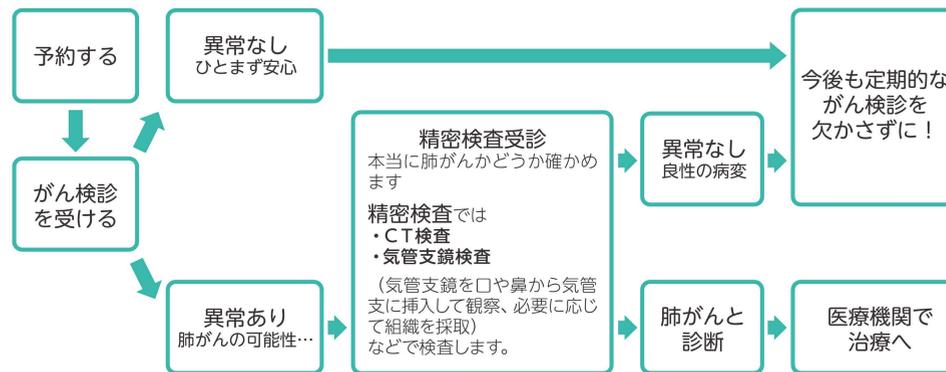
50歳以上で喫煙指数が600以上の方はX線検査に加え、喀痰検査も行います。3日間起床時に痰をとり、専用の容器に入れて提出します。痰に含まれる細胞や成分を測定して、がん細胞の有無を調べます。

・喫煙指数 = 1日の喫煙本数 × 喫煙年数



- ・がん検診は自覚症状のない早期のがんを見つけるものです。
- ・血痰、長引く咳、声のかれ、息切れなどの自覚症状がある場合は、迷わず病院へ行きましょう。

## 肺がん検診の流れ



必ず精密検査を受けましょう

※精密検査結果は、お住まいの市町及び検診機関へ報告されます。

○がん検診では、がんが100%見つかるわけではありません。がんでないのに「要精密検査」と判定される場合 (偽陽性) やがんがあるのに見つけれない場合 (偽陰性) があります。